

# ころばん体操 出前講座 ひばりが丘公民館

平成28年8月2日(火) 14:00~15:30

参加者 計24名 (男性3名 女性21名)

## 【講話】

### I・「いつまでも自宅で暮らすために」・・・(在宅医療)

いちき串木野市包括支援センター 保健師久保小百合

日本人の死亡率は・・・人は必ず亡くなる 100%の死亡率です。  
どこで最期を迎えたいか、どんな生活を続けながら最期を迎えたいか  
一人一人がこれを機会に考えてみてください。2025年問題について  
・・・踏まえて高齢化社会となっていく。いちき串木野市はすでに65歳  
以上が30%を超えている。国は施設や病院を増やさない方向で進め  
ています。地域で支え合って元気で自宅で過ごしていけることが大事  
です。市が行った地域のアンケートでも自宅で最期まで暮らしてい  
きたい人が41%、考えたことがない人36.3% 病院の人は11%でした。  
やはり自宅で最期まで暮らしたい人が多くいます。



### II・「がんばりすぎない介護を応援します」 退院支援について

いちき串木野市医師会 在宅医療推進コーディネーター 南新 敦子

- ・ 訪問の看護師やリハビリのスタッフの支援もサービスで受けられます。ご家族の介護負担がすこしでも軽くできるようにサポートしていく相談も受けています。介護度が高い患者さんでも、家族や本人の意向に沿って入院中からサポートしながら自宅に帰るための準備をしていきます。

### IIIパンフレット:「がんばりすぎない介護を応援します」紹介 マイライフノートの紹介と説明

質問コーナーでは積極的に質問がありました。

**Q:実際に退院した患者さんが、再度入院した事例はありますか。**

**A:退院をしてしばらく自宅で生活したが、歩き方や動きが少し以前より悪くなったので入院してリハビリを受けて再度自宅生活に戻れる患者さんはいます。(入院期間の制限はあります。)**

**Q:認知症の人が、介護認定の調査のときに出来ないことも出来ると言ったりして、実際の状態よりも軽い認定になったとき、認定のやり直しはできるのか？**

**A:介護認定の変更の申請届けの手続きは受けられるので包括支援センター健康進課に相談してください。**

ただ認知症の人ができるといわれるのは悪いことばかりでもなく、その人の力なので、そこは認めてあげることもしていただきたいです。

